



→夏が続くようになると江戸川の水もどろりとする。

←水陸両用バスの上陸地点の工事が始まって江戸川の堤防に道がつけられていた。



梅雨にはいったというのに雨らしい雨はいまだに降らない。

もちろん生活するうえで雨が降らないほうがいいが、矢切の畑ではキャベツの収穫が終わると、これから特産品の矢切ネギの植え付けが始まる。そのためには、多少の雨も降ったほうがいい。まさに、ぜいたくな悩みだ。

ところで矢切地区の開発計画が着々と進んでいる。矢切の渡しに近い畑の一角に「川の駅」をつくる計画がもちあがっているが、いまのところまだ具体的な動きはない。

それよりも水陸両用バスを走らせる計画のほうが早めに動きがでている。松戸駅を出発した水陸両用バスは駅周辺を観光してそのまま江戸川にはいり川を下って矢切の渡しの下流で上陸して陸路、松戸駅に戻るコースで運行されるらしい。

矢切の渡しの下流では、江戸川の堤防に上陸用のスロープと堤防上の道の拡張工事が始まっている。土手の斜面を切り開いて斜めに道がつくられている。上陸地点には市民が寄付した桜の

今週のクマ

→真竹のタケノコが盛りだ。クマもこのタケノコは好物だ。しきりにかじる。



→わずかの水たまり大人たちが集まって釣りをする。連れるのは2センチほどのフナの子だ。



木が植えられ、ちよつとした広場になっているが、計画ではここをバーベキュー広場にしようということらしいが、ゴミの問題などがあり各地でトラブルが起きているというので思案しているようだ。こうして矢切畑が開発されていくのはいいが、自然が失われていくのはあまり嬉しくはない。いまでさえ数年前と違って自然は失われている。

その代表的なのが小川だ。数年前までは矢切畑を流れる用水路に水が流されていたが、いまは田んぼが少なくなつたせいもあるし、早くから土用干しがおこなわれるせいで用水路に水がない。

たった一カ所ある用水路の水のたまってるところに数人の大人たちが群がって小鮒釣りに興じている。

用水路に水が流れていないとはいえ、わずかの水たまりを求めて遠くから親子連れがやって来て網をいれている。はたして、なにが取れるのだろうか？

松戸市が考えているような矢切畑の開発もいいが、水路に水を流して小川を復活させてはどうだろうか？

水が流されれば、小魚やカエル、トンボなども戻ってくる。人も戻ってくる。